

母系3世代連鎖のコミュニケーション&消費パワー

小学生になっても、孫はバアバとずっと仲良し

3年前に実施した未就学児がいる世帯の3世代コミュニケーション研究では、“母系”が生み出す3世代連鎖の消費パワーと“実家の実力”が明らかになったが、それは、未就学児=可愛いさかりの小さい子どもがいるからなのでは？ そこで今回は、小学生の子どもがいる世帯を調査。娘世代への定量調査結果と祖母世代のフリーアンサーからは、孫が幼児時代と変わらない、絆の強さが見えてきた。

小学生の子どもがいる母系3世代プロフィール



ママ/平均年齢 38.9歳



バアバ/平均年齢 64.2歳



孫/お兄ちゃん 小学5年生

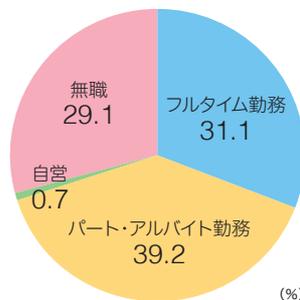
「野球を始めて忙しくなったけど、ジジ・バアバには世の中の仕組みなどいろいろ教えてもらっています」



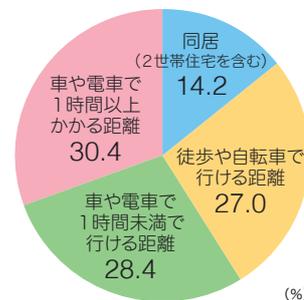
孫/妹 小学2年生

「一人で行動できるようになったから、放課後、ママが仕事の日にはバアバの家に行って宿題をやっています。晩ごはんも作ってもらいます」

ママの働き方



ママ自身の住まいと実家との距離



【調査概要】

・実家とのコミュニケーションについての調査から
小学1年生～3年生の子どもを持つ女性：106n、小学4年生～6年生の子どもを持つ女性：69n
2017年9/27～10/2 リビングWeb、あんふぁんWeb、シティリビングWebでのWeb調査

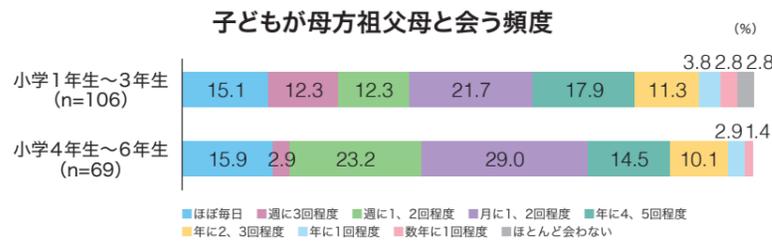
・娘世代とのコミュニケーションについての調査から
実の娘世帯に小学生の子どもがいる女性：94n 自由記述式の回答のみ掲載
2017年9/25～10/10 読者組織リビングパートナー、リビングWebでのWeb調査
※各データは小数点第2位以下を四捨五入したため、合計が100%にならないことがある

- ◆子どもが会いたいといいます。父母も孫に会いたいらしいし、そんなに遠くなく、ご飯も作ってくれるので(笑) (25歳)
- ◆私が仕事を始めたので、仕事の日には娘は実家に帰宅するようになった(41歳)
- ◆下の子の面倒を一緒に見てもらっている(34歳)
- ◆実母の仕事に余裕が出てきて休みが取りやすくなったので、会う頻度が増えた(35歳)
- ◆放課後週2日は必ず実家に帰るようになったため(37歳)

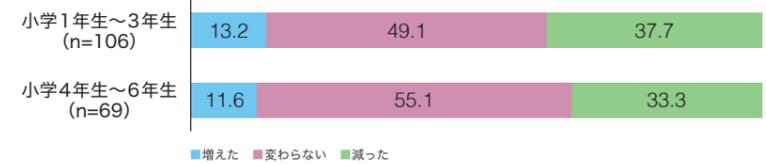


孫と母方祖父母、6割超が月に1、2回以上会っている 小学生になっても実家との親密度は変わらない

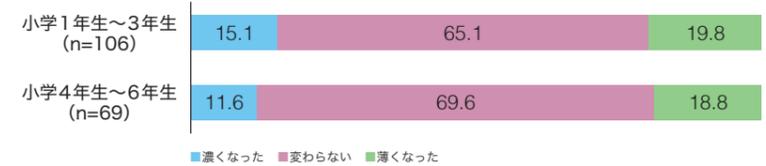
小学生の子どもが実家の祖父母と会っている頻度を聞いたところ、小学校低学年で月に1、2回以上(ほぼ毎日+週に3回+週に1、2回+月に1、2回)が61.4%。塾や習い事などでいるいと忙しくなる高学年でも、71.0%とかなり高頻度に顔を合わせている。5年前に比べて、会う頻度や祖父母との親密度の変化を聞いても「変わらない」が最も多い。直接会う機会が減った場合でも、孫の成長に伴いコミュニケーションの内容が深くなるというフリーアンサーもあり、濃い関係性は続いている。



5年前と比べて 子どもが母方祖父母と会う頻度の変化 (%)



5年前と比べて 子どもと母方祖父母との親密度の変化 (%)



- ◆小学生になり、留守家庭の帰りに毎日寄るようになった(63歳)
- ◆一人で泊まれるようになった(69歳)
- ◆毎日娘が帰って来るまでいる(67歳)
- ◆小学生になり世間の仕組みなどを私にたずねることが多くなった(57歳)
- ◆直接会う機会は減少したが、野球クラブなどについて話をすることが増えた(57歳)
- ◆興味ある事を質問されたり、フェイスタイムで週3回連絡をとりあってます(69歳)

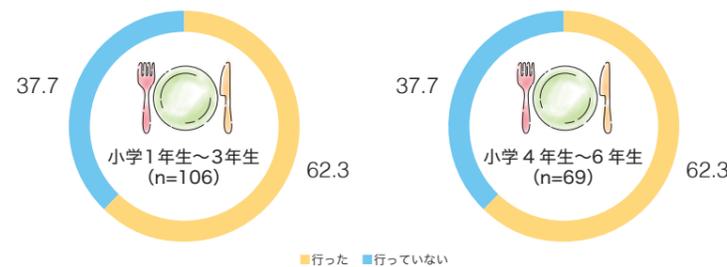


3世代での外食

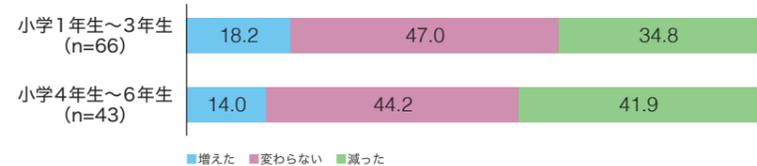
どの世代でも楽しめる回転寿司、ファミレス利用が圧倒的

直近3カ月以内、3世代での外食は小学校低学年・高学年とも62.3%が「行った」と回答。レジャーよりも外食を楽しんでいる3世代が多くなっている。3世代で行く外食店の種類は、回転寿司、ファミリーレストランが圧倒的。カジュアルな雰囲気と、子どもから年配者までの世代でも楽しめるメニューがあることが要因。

この3カ月以内、3世代で外食に行ったか (%)



5年前と比べて 外食の頻度の変化 (%)



外食で行くお店トップ5

	小学1年生~3年生 (n=66)		小学4年生~6年生 (n=43)
回転寿司	69.7	回転寿司	62.8
ファミリーレストラン	56.1	ファミリーレストラン	58.1
和食店	36.4	和食店	39.5
焼肉店	34.8	洋食店	25.6
洋食店	31.8	ラーメン・餃子店	23.3

- ◆孫はまだ一年生なのでやはりダントツファミレスが多い。次に回転寿司(孫が大好きだから...)。堅苦しいかしこまった店には行かなくなりました(64歳)
- ◆孫の好きなものを食べさせたいので回転寿司が多い。私たちも、普段行かないお店にも行ってみたいので(66歳)
- ◆平日は毎日孫の面倒を見ているので、お礼に外食に誘われることが増えた(63歳)
- ◆今の様に何でも一人で食べられる様になると出やすくなるから、一緒に外食する機会が増えた(64歳)

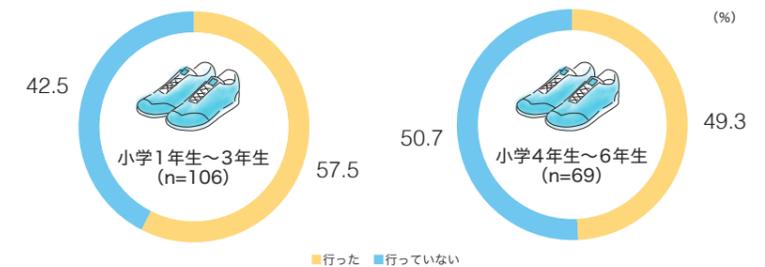


日帰りレジャー・お出かけ

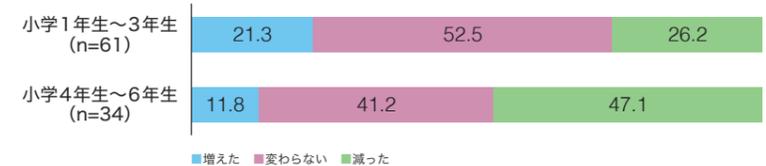
小学生も高学年になると大忙し！それでも、約半数が祖父母とお出かけ

この1年以内、小学校低学年の6割近くが祖父母との日帰りレジャーやお出かけに行ったと回答。幼児のころに比べると、小学生になって行ける所が増えることもあり、お出かけ頻度はやや増加している。高学年になると塾や習い事などで子どもも忙しくなり、頻度は減少傾向に。それでも半数近くが一緒にお出かけをしており、ここでも密度の濃さがうかがえる。頻度が減少した理由としては、子どもが忙しくなってきたのに加え、子どもの体力・行動力に祖父母がついていけなくなってきた、という声も。

この1年以内、3世代で日帰りレジャー・お出かけに行ったか (%)



5年前と比べて 日帰りレジャー・お出かけの頻度の変化 (%)



日帰りレジャーやお出かけ先トップ5

	小学1年生~3年生 (n=61)		小学4年生~6年生 (n=34)
郊外のショッピングモール	59.0	レジャー施設(遊園地・テーマパークなど)	52.9
百貨店・駅ビルなど	45.9	郊外のショッピングモール	47.1
動物園・水族館	41.0	動物園・水族館	32.4
レジャー施設(遊園地・テーマパークなど)	37.7	百貨店・駅ビルなど	29.4
果物狩り・海	19.7	美術館・博物館	17.6

- ◆小さい時はあまり設備が整ってない所、制限のある所などは行けないのですが、小学生になればどこに行っても大抵大丈夫なので頻度は増えました(25歳)
- ◆子ども達の興味や、行動範囲、運動能力などが高くなって出かける機会が増えた(33歳)
- ◆一緒に行けそうなスポットがあれば声をかけるので、頻度は変わらない(39歳)

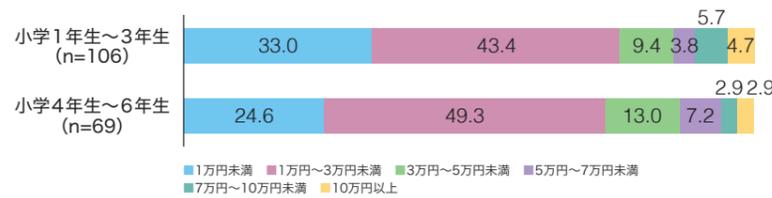


子どもが祖父母からもらうお小遣い

小学校にあがったタイミングでわずかに増額 一定金額に保つ工夫がいろいろ

祖父母からもらうお小遣いやプレゼント、年間の金額は、1万円～3万円未満がボリュームゾーン。5年前と比較して金額の変化を聞いたところ、小学校に入ったタイミングや、高学年に進級をしても、金額が「増えた」のは3割前後にとどまり、「変わらない」が6割。生の声を見ると、「決まった行事のときに一定額をもらうので」「高学年になって1回にももらう金額は増えたが、会う頻度が減ったので総額は変わらない」というあたりが実態のようだ。

母方実家から子どもがもらう年間の金額 (%)



5年前と比べて 母方実家から子どもがもらう金額の変化 (%)



◆小学生になって自分でおやつを買ったりするようになったのでお小遣いをもらうようになった。以前は誕生日におもちゃでもらっていたのだが最近では好きなものを自分で買うようにとお金でもらうようになった (43歳)
◆お正月、誕生日、クリスマス、進級祝いを毎年もらっているから金額は変わらない (41歳)
◆行事毎に決まった額をもらうので金額は変わらない (41歳)



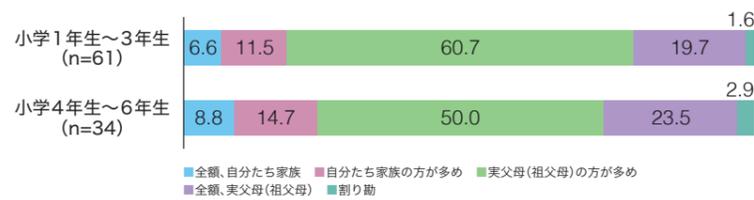
◆以前は品物だったのが現金にして好きなものを買うようにした (71歳)
◆小学校になったので品物よりお金になって5割未満程度増えた (58歳)
◆孫が野球クラブ活動を始めたので、用品代の援助を行い5割以上増 (57歳)
◆小学生の間は、同じ金額にしている (67歳)
◆毎月、同じ金額を振り込んでいる (67歳)



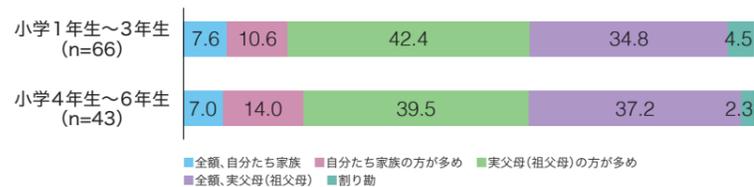
レジャーや外食の費用は「おじいちゃんおばあちゃん、お世話になります！」

お小遣いやプレゼントの金額は比較的抑え気味だが、レジャーや外食の費用負担を見ると、祖父母側の負担がぐっと多いことが分かる。特に外食はかかる費用がさほど高くないこともあり、「全額祖父母側負担」が3割を超え、「祖父母の方が多め」を足すと8割近くになる。総額が少なくとも頻度が多い外食費用、娘世帯にとっては、かなりのサポートになっているのではないだろうか。

日帰りレジャーやお出かけの費用負担 (%)



外食の費用負担 (%)

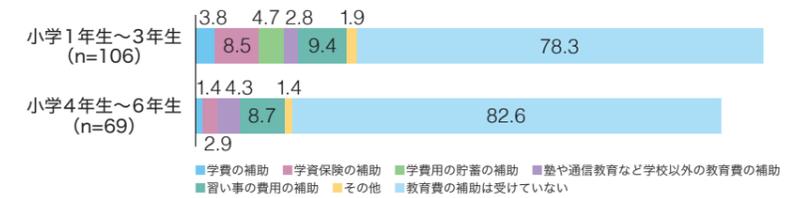


実家からの支援・サポート

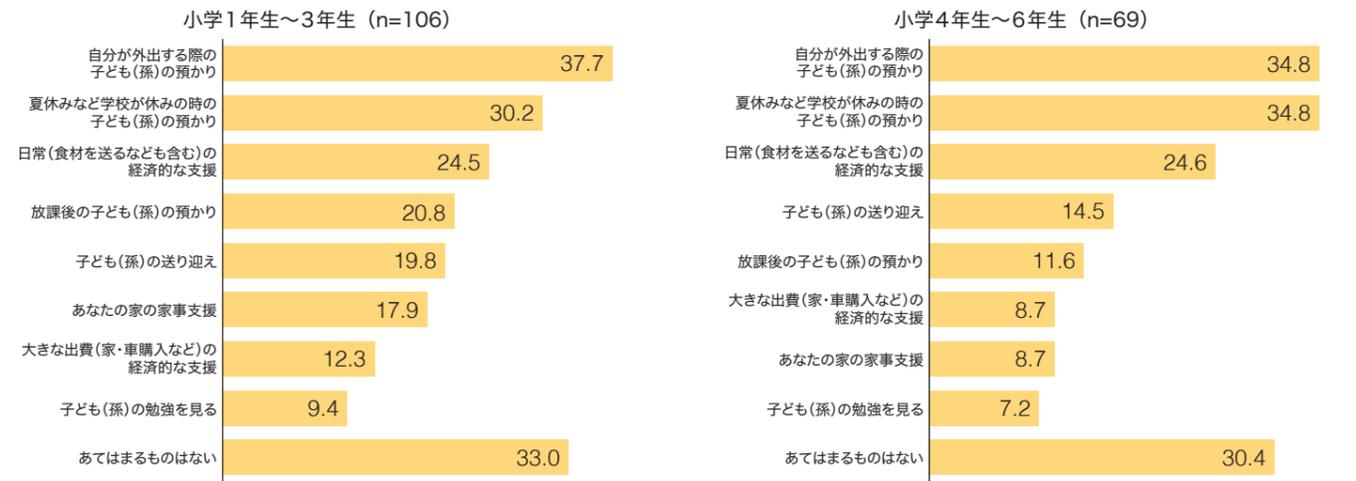
教育費のサポートは受けないけれど、 日常支援は多岐にわたる

教育費関連の支援は、小学校低学年で、学資保険の補助、習い事費用の補助、小学校高学年で、習い事費用の補助がわずかに多いが、いずれも1割未満。8割前後が支援は受けていない、と回答している。教育費以外、日常的な支援・サポートについては、多岐にわたって“実家の実力”が発揮されている。子どもの預かりが多く、約1/4が、食材をもらうなど日常的な経済的支援を受けている。小学校も高学年になると家事の援助は減るものの、“贈与(祖母→娘)と返礼(娘→祖母)”の関係は続いている。

母方実家から受けている教育費のサポート (%)



実家からサポート・支援してもらっていること (%)



番外編

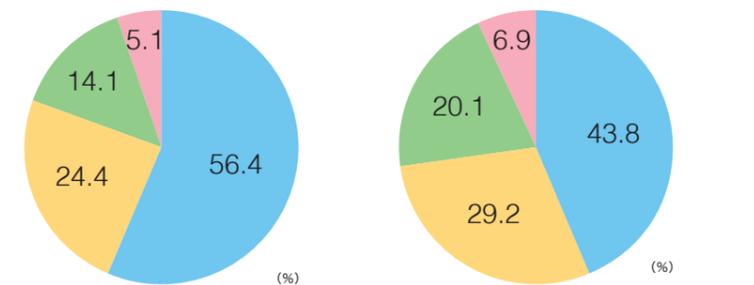
祖母世代は、働く娘を応援している！

女性の社会進出が進む中、仕事と家庭を両立させている娘について、祖母世代はどう思っているのかを聞いてみた(※)。5割以上が「できるだけ応援したい」と思っており、「あまり頼られても困る」と考えているのは1/4程度。8割は「働き続けてほしい」と思っている。

逆に、働く娘に実母がどう思っていると思うかを聞いたところ(※※)、「(実母は)あまり頼られても困ると思っている」「(実母は)仕事をセーブした方がいいと思っている」のポイントが、祖母世代よりやや高い。実の母娘とはいえ、母は応援の気持ちや伝えきれておらず、娘には若干の遠慮の気持ちが働いているようだ。

働く娘への実母の気持ち

働く娘が推測する、実母の気持ち



※既婚・子どもあり・働いている実の娘を持つ女性、78人の回答
※※既婚・子どもあり・働いている女性、144人の回答